

薬剤師・薬局の上手な活用法

Vol. 2 地域を支える一員、薬剤師の役割は？

日本は2025年以降、約25年間にわたり年間約160万人が亡くなると推計され、「多死社会」を迎えています。2000年には看取りの約81%が病院でしたが、2023年には65.7%まで低下する一方、在宅での看取りは13.9%から17.0%へと増加しています。これは在宅医療の

提供体制が整備されてきたことも一因と考えられます。また、内閣府の調査では、人生の最期を迎えたい場所として「自宅」を希望する人が最も多く、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続ける「エイジング・イン・プレイス」の考え方が広がっています。

その実現を支える重要

な仕組みの一つが在宅医療です。在宅医療における薬剤師の役割は、処方薬を届けるだけではありません。例えば、がん終末期の患者さんが痛みや吐き気などの症状に悩んだ際には、医師や看護師と連携し、症状や生活状況に応じた薬を提案・提供します。また、薬の効果を十分に得るための使

用方法や、副作用をできるだけ軽減するための工夫を説明し、患者さんや家族に寄り添いながら支援します。

在宅医療・介護は、多職種が連携して地域で支える体制づくりが進められています。人生の最期をどう迎えたいかという考えは一人ひとり異なり、その意思を尊重することが大切です。そのため、普段から家族や医療・介護関係者と話し合う「人生会議（アドバンス・ケア・プ

ランニング・ACP）の取り組みも重要視されています。薬剤師は患者さんだけでなく家族の不安にも寄り添い、安心して在宅での療養を続けられるよう支援する重要な役割も担っています。在宅医療やお薬に関することは、お近くの薬剤師・薬局へぜひご相談ください。



かかりつけ薬剤師・薬局とは？

こちらも
チェック

公益社団法人 日本薬剤師会

